

全乗務員が感染予防に努める中、 「添乗」「監視」は今、やることなのか!?

政府は、4月7日から緊急事態宣言を発令し、5月4日には、5月31日までの延長も決定しました。

新型コロナウイルス感染症防止対策として、厚労省や専門家から、①人との接触を8割減らす。②不要不急の外出を避け、移動を減らす。③3密を避ける。ことが指導・要請されています。それに基づき大手企業や飲食店、小売店舗は臨時休業や、テレワークなどを実施しています。

JR東海や関連会社においても、通勤時や就業中における感染防止のため、新幹線の運行計画の見直しを受けて在宅勤務を各職場で指定しています。

運転台での添乗は3密状態だ!

そのような状況の中、新幹線の運転士・車掌に対して、管理者の「添乗」「監視」が平然と行われています。狭い運転台では密閉空間で密接となります。さらに大阪第二運輸所・松本所長は休日にわざわざ名古屋駅のホームに立って乗務員を監視する姿まで確認されました。感染リスクを負いながら安全運行を担っている乗務員に対する管理者の行為は、感染の危険を犯す行為であり、感染症防止対策に逆行する危険な行為であります。管理者に抗議すると「換気は取れている」と全く危機感のないコメントでした。

本社経営協議会における東海労本部の業務遂行体制の申し入れに対し、「不要不急な出張、会議及び面会、飲酒を伴う懇親会を禁止する。」と本社は回答しています。今、やることは一人の感染者を出さないことです。

この時期に「添乗」しなければ列車は、運行出来ないのでしょうか。今やることと、今やらなくてもいいことの判断が出来ない現場管理者に安全を語る資格はありません。

政府・厚労省や本社の指針に逆行する

「添乗」は、直ちに止めるべきだ!